

「シドニー便り 2. 0」(第7回)

～ 2023年の年の初めに : 芸術と文化で活躍する多くの日本人 ～

1月6日

皆さま、それぞれに良い新年を迎えられましたでしょうか。

私自身は、年末年始は、東京のカレンダーに合わせて6日間の休暇を頂きました。ハンター・バレーを一泊二日で訪問し、人生初の盛夏の正月を経験しました。豊かな大自然に触れ、心が癒やされた思いです。



2023年が皆さまにとり素晴らしい一年となることをお祈りします。

休みの期間、9月のシドニー着任以来の写真を振り返ってみました。

数多くの芸術・文化行事に招待された際の写真に自然と目が向きました。シドニーが豊かで多様な文化を育む街であり、その中で多くの日本の方々が活躍されていることを再確認し、私自身が励まされる思いです。多様性の尊重と他者への寛容さは、オーストラリア社会を外部の人間にとり適合しやすい社会としている根幹的な要素と言えるでしょう。

活躍する日本の方々すべてを網羅的に書き切れませんが、ご紹介させていただきます。

まず、Art Gallery of NSW(州立美術館)です。

12月3日に新館が開館し、当地紙でも多く報道されました。建物の設計の斬新さに加え、地下に位置するかつての石油タンクをほぼそのままの形で(柱を一つ取り替えただけ)現代美術ギャラリーに衣替えさせた大胆な発想も注目を集めました。開館に先だち、設計を担った建築家ユニット「SANAA」の妹島和世・西沢立衛両氏にお会いし、内覧させて頂く機会を頂きました。地形をできるだけそのまま活用したということで、フロアが平らでなく、入館した瞬間は平衡感覚を失ったような不思議な感覚に陥ります。村上隆氏の圧倒的な壁面の絵画、草間彌生氏の彫刻などもみどころです。シド

ニーの新名所に加わることに間違いなしと、当地で高い評価を得ています。ボランティアガイドによる日本語ツアーも行われていると聞きましたので、続報したいと思います。



次は生け花です。11月に Ikebana International のクリスマスイベントに招待頂きました。Hiroko Prado 様はじめ、それぞれの参加者が、様々な流派で、素晴らしい作品を当日完成されています。加えて、講師を招いてのプレゼンテーションも行われました。花の名前を英語で学ばないといけないと思った次第ですが、固有種が多いのか、日本語訳を見ても良く分からないのが、頭が痛いところです。



続いて彫刻です。「Sculpture by the Sea」という展示に招かれました。南岸のタマラマ・ビーチからボンダイ・ビーチの手前まで続く、海を臨む遊歩道に、彫刻が点在する形で展示されています。展示会を取り仕切る David Handley 氏の献身的な活動に敬意を表します。今年は特にウクライナの彫刻家の作品が注目を集めていました。展示されている108の彫刻のうち9つが日本人彫刻家によるもので、そのうちの一人の牛尾啓三氏には公邸を訪問頂きました。何かを置くならここがいいなど、実践的かつありがたいアドバイスを頂いたところです。



茶道では、王立植物園で行われた裏千家シドニー協会の定例の茶会にお招き頂きました。当日は妻とともに私も着物を着てみました。コック市議会議員も夫妻で参加され、ご一緒しました。



音楽の世界では、Strathfield Symphony Orchestra のコンサートに出席しました。指揮者の村松貞治氏とともに、オーストラリア室内管弦楽団(ACO)で活躍しファンの多いバイオリニストの後藤和子(あいこ)氏も演奏され、二人のエネルギッシュな音楽に、Karen Pensabene 副市長ともども、圧倒されました。



多文化主義のオーストラリアにおいて、芸術・文化の分野で多くの日本人が活躍されている様子をととても心強く感じます。総領事館として背中を押してあげることができれば、そのことが少しでもお役に立てれば良いな、という思いを新たにしました。

着任してからの写真を眺め直し、元気をもらった年末年始の休暇となりました。
2023年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(以上)